

会議名	畜産環境保全に関する技術開発成果発表会
開催日時	平成 16 年 12 月 15 日（水） 10：00～16：40
開催場所	J Aホール（東京都千代田区大手町）
主催者	（財）畜産環境整備機構
参加人数(概数)	約 350 名？（出席者名簿公開無し。定員の 450 名には達していない）
1. 会議の概要 （500～1,000 字程度または議事内容の資料添付）	<p>畜産環境整備機構の第 7 回成果発表会。</p> <p>家畜排せつ物処理コスト低減等技術開発推進事業のうち平成 15 年度に開発研究が終了した民間企業・大学の研究成果、簡易低コスト家畜排泄物処理施設開発普及促進事業のうち平成 14 年度および 15 年度に都道府県等に委託して開発実証している処理施設の技術開発の成果について、口頭およびポスターによる発表が行われた。</p> <p>報告された課題の内容は別添資料のとおり。 座長団による課題ごとの評価は下記のとおり。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>I. 口頭発表</p> <p>1. 家畜排せつ物処理コスト低減等技術開発推進事業</p> <p>①「環境負荷軽減焼却施設で製造した鶏糞焼却灰の鶏用飼料への利用（実農業での焼却灰リサイクル技術の確立）」 （平成 13～15 年度 伊藤忠飼料株） 飼養試験方法に問題があるが、飼料とした使えることを実証。</p> <p>②「鶏糞を原料として製造する活性炭及び灰化品を飼料及び悪臭吸着等の環境保全資材として活用する実用化技術の確立」 （平成 14～15 年度 マルイ有機株） 有効期間の検討を要するが、鶏糞を堆肥以外の他の目的（炭化、灰化品として）に使えることを実証した点が評価できる。</p> <p>③「活性汚泥由来繊毛虫および豚舎汚水処理活性汚泥に対する各種殺菌剤（標準品）の影響と評価」 （平成 14～15 年度 日獣畜大） 活性汚泥由来繊毛虫が殺菌剤に強いことが明らかにされた。基礎的データとして評価できる。</p> <p>2. 簡易低コスト家畜排せつ物処理施設開発普及促進事業</p> <p>①「低コスト個別型嫌気性液肥化施設」 （平成 15～16 年度 根釧農試） 良質スラリー生産の点では評価できる。消化液中の雑草種子・病原微生物・クリプトスポリジューム等の衛生対策、余剰ガスの有効利用、低コスト化等について更なる検討を要す。</p> <p>②「密閉縦型発酵装置—成型機システム—」</p>

	<p>(平成 13～16 年度 三重県科振セ農業研究部)</p> <p>鶏糞を堆肥としてではなく、流通支援システムも付け、登録肥料として流通させようとするユニークな試みであり、鶏糞の販路拡大の点からも評価できるが、利用する耕種農家の評価が決め手となるだろう。</p> <p>③「回分式活性汚泥浄化処理施設」</p> <p>(平成 13～16 年度 宮崎畜試川南支場)</p> <p>設備業者を排除して試験場が主体となって低コスト化を図った新しい方式が評価されるが、公的なサポート体制の維持に不安を感じさせられる。</p> <p>II. ポスターセッション</p> <p>1. 家畜排せつ物処理コスト低減等技術開発推進事業</p> <p>6 課題</p> <p>2. 簡易低コスト家畜排せつ物処理施設開発普及促進事業</p> <p>7 課題</p> <p>1.2. を通じて座長のからのコメントは特になし。</p> <p>I. II を通じた座長 (東北大・中井教授) からの総括的コメントとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堆肥化以外の、より多くのオプションを作ること。 ・エネルギーの流れ、金の流れ (電気・ガス代。堆肥収入) のシステム化が必要。 ・インターネット等を利用した情報の伝達。 ・安全性への配慮。 ・環境 (温室効果ガス、化石燃料) に対する配慮。
<p>2. 今後の研究開発分野として重要と思われる関連発表</p>	<p>冒頭の畜産企画課長挨拶でも触れられたが、簡易対応で整備された施設の劣化対応が特に重要と考えられる。また、堆肥の利活用についての耕種部門との連携も重要と思われる。</p>
<p>3. その他の発表課題で関心のあったもの</p>	

<p>4. 今後研究開発課題採択に当たって参考とすべき事項等</p>	<p>資金の流れについて、発表された課題の報告ではランニングコストには触れているが、イニシャルコストに触れたものは少なかった。また、公的機関に建設された施設については、明らかに過剰投資とみなされるものがあったが、そのことに触れた発表も質疑もなかった。当協会の場合、設備・備品費は認めていないが、研究開発の費用対効果を事前評価する資料として委託課題の経費内容と共に人件費も含めた全経費を占めさせる必要がある。</p>
<p>報告者</p>	<p>針生 程吉</p>